

1・2月の休診日:毎週日曜・月曜、1/1日(日)、2日(月)、3日(火)、2/23日(木)

2023年 病院長より新年のご挨拶

新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は地域の皆さまには当院に多大なるご厚情を賜り心より御礼申し上げます。

私たちは世界中を席卷するコロナ禍の中、3回目の新年を迎えることとなりました。昨年は、これまでにないコロナウイルス感染の波により、医療機関にとって初めてとなる緊急対応をとり、重大な問題を回避しながら、みなさまと乗り越えた年でした。島民のみなさま、行政のみなさま、本島関係者らには改めて御礼を申し上げます。

年頭に当たり、当院は共存が進むコロナ禍中におきましても、島民の皆様方のご支援の下、一丸となって、当院の3つの基本理念を実践することをお約束いたし

ます。3つの基本理念とは、「1. 患者様が安心できる医療を進めるとともに、病気や健康管理に気軽に相談できる久米島住民の主治病院をめざします」、「2. 久米島の住民と職員が、安心と信頼で結ばれ、心のかような身近な病院をめざします」、「3. 患者様が満足し、職員が笑顔と優しきで生き生きと働ける病院をめざします」、です。また、理念に基づき、感染に強い救急体制の構築、在宅医療部門の質向上、町との災害医療連携、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)の活用、予防・保健活動の充実などを目指し、みなさまの足元にあるインフラの1つとしての役割を果たす所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



「発達凸凹とは」

公立久米島病院
小児科 渡邊 幸

新年あけましておめでとうございます。今年は発達のお話からスタートしたいと思います。

「発達凸凹」とは簡単にいうと、子どもの脳が発達していく過程で、発達が「早いところ」と「遅いところ」の差が大きく、脳機能に偏りが生じている状態と言えます。例えば「人と関わる力(社会性)」「注意力をコントロールする力」「言葉を理解する力」などに偏りが生じると、幼少期から色々な困難さが出てきます。「自閉症スペクトラム」「注意欠如多動症」「学習障害」などの「発達障害」もこの発達凸凹に入りますが、診断名がつかなくても発達凸凹で困っているお子さん(大人も)は沢山います。では、そのような子たちにはどのように関われば良いのでしょうか？

<家庭での関わり>

大人が子どもに合わせて個別に柔軟に対応することができると、困り感は生じにくいですが、「出来ない」と思うことも、「今はまだ」出来ないだけで、いずれできるようになる、と信じて子どもの歩みに一步一步寄り添うことで安心感が生じます。また、親子で笑い合える「楽しいやりとりの時間」があることは、子どもの成長発達の大きな支えとなります。一方、周囲と比べたり、親の理想に当てはめようとしてしまうと、叱責が増え、親も子どもも安心感は減ります。

<集団での関わり>

保育園や学校ではどうしても「年齢相応の行動」が求められます。それが出来ないと「困った子」「困らせる子」と捉えられやすいですが、子どもは皆できることならうまくやりたいと思っており、できるのに「わざと」やらないということはまずありません。出来ない時は、「うまくできるスキルがまだ身に付いていない」と理解し、「どうしたらできるようになるか？」と考えたり、本人に聞いてみることはとても大切です。支援や配慮が「甘やかし」になるのではという不安の声もよく聞きますが、目が悪い子にとっての「めがね」と一緒に、他の子と同じスタートラインに立つためのものでしかないことを理解してもらえると良いと思います。

発達凸凹について少しでも多くの方が理解し、さまざまな人にとってすみやすい環境が作られていくことを願っています。

